

# 在日語・台閩語之連語中從「模樣變換動詞」 移行而成的連語其移行關係的比較

施 淑惠

大葉大學應用日語學系 助理教授

## 中文摘要

日語與台閩語兩語言在表達「對物作用」的連語中，「模樣變換動詞」、「放置動詞」、「去除動詞」、「搬徙動詞」、「磕摸動詞」、「生產性動詞」等動詞，其各自作為本動詞可以與「WO 格名詞」組合形成連語。

本論文是就兩語言從「模樣變換動詞」往「放置動詞」，及從「模樣變換動詞」往「去除動詞」，以及從「模樣變換動詞」往「生產性動詞」移行的動詞與「WO 格名詞」組合形成的連語作考察，針對此兩語言之連語的移行關係作比較。

兩語言此類連語的移行關係可以考察出以下幾點特色，1. 兩語言間無移行的差異，連語的形式上也無差異。2. 兩語言間無移行的差異，不過，連語的形式上有差異。3. 兩語言間無移行的差異，台甲可以移行至台乙、台乙也可以移行至台甲的連語。4. 兩語言間有明顯的移行差異，台甲不可以移行至台乙、台乙也不可以移行至台甲的連語。5. 兩語言間各有其特色的連語。

關鍵詞：移行、模樣變換動詞、放置動詞、去除動詞、生產性動詞

受理日期：2014.08.29

通過日期：2014.10.24

**Shift-related comparison of the collocation which it shifts  
and makes from the "Appearance transformation verb"  
in Japanese and in TSML**

SHIH SHU-HUI

Assistant Professor, Department of Applied Japanese,  
DAYEH University

**Abstract**

In Japanese and Taiwan Southern Min Language (TSML), by the collocation showing "influence to a thing", an "Appearance transformation verb", an "Installation verb", a "Detaching verb", a "Moving changing verb", a "Touching verb", and a "Verb of productivity" can make a collocation in combination with "the noun of wo rank" as a full verb, respectively.

This paper considers the collocation which the verb which shifts to an "Installation verb" makes from the "Appearance transformation verb", a "Detaching verb" makes from the "Appearance transformation verb", and a "Verb of productivity" makes from the "Appearance transformation verb" in both languages in combination with "the noun of wo rank", and compares the shift relation of the collocation of both the language.

As for such a shift relation of the collocation of both languages, 1. the difference in shift is not seen, and the difference between what the form of the collocation does not differ from, either, 2. the difference in shift is not seen and the form of the collocation is different, 3. the difference in shift is not seen and 台甲=台乙 and 台乙=台甲 can shift, 4. the difference in shift is remarkable and 台甲≠台乙 and 台乙≠台甲 can not shift, and 5. the thing with each special feature, etc. have been considered.

Keyword: shift, Appearance transformation verb, Installation verb,  
Detaching verb, Verb of productivity

# 日本語・台閩語における「(模様替え/模様変換) 動詞」から 移行して作る連語の移行関係の比較

施 淑恵

大葉大学応用日本語学科 助理教授

## 要旨

日本語・台閩語において、「物に対する働きかけ」を表す連語では、「(模様替え/模様変換) 動詞」、「(取り付け/放置) 動詞」、「(取り外し/去除) 動詞」、「(移し変え/搬徙) 動詞」、「(触れ合い/磕摸) 動詞」、「(生産性/生産) 動詞」のような動詞は、それぞれ本動詞として「を格の名詞」と組合せて連語を作ることができる。

本稿では、両言語における「(模様替え/模様変換) 動詞」から「(取り付け/放置) 動詞」へ、「(模様替え/模様変換) 動詞」から「(取り外し/去除) 動詞」へ、そして、「(模様替え/模様変換) 動詞」から「(生産性/生産) 動詞」へ移行する動詞が「を格の名詞」と組合せて作る連語を考察して、その両言語の連語の移行関係を比較する。

そのような両言語の連語の移行関係は、①移行の差異は見られなく、連語の形式も違ってないもの、②移行の差異は見られなく、連語の形式が違っているもの、③移行の差異は見られなく、台甲＝台乙、台乙＝台甲が移行できるもの、④移行の差異は顕著で、台甲≠台乙、台乙≠台甲が移行できないもの、⑤それぞれの特色を持っているもの、などが考察できた。

キーワード：移行、(模様替え/模様変換) 動詞、(取り付け/放置) 動詞、(取り外し/去除) 動詞、(生産性/生産) 動詞

# 日本語・台閩語における「(模様替え/模様変換) Vt」から 移行して作る連語の移行関係の比較

施 淑恵

大葉大学応用日本語学科 助理教授

## 1. はじめに

### 1.1 「対象的な結び付き」を表す連語

奥田(1985:69)によれば、「連語はふたつ、あるいはみっつの単語からなりたっていて、そのうちのひとつが核になっている。その核になる単語の語彙的な意味をせばめて、具体化するというし方で、ほかの単語が核になる単語にくみあわさる。したがって、連語は、語彙的な意味の具体化をもとめて、ほかの単語をしたがえる《かざられ》と、そのかざられによりかかる《かざり》との、ふたつの構成要素からなりたっている。」と連語の定義について説明している。

その「飾られ」を「他動詞」に、「飾り」を「を格の名詞」にする「を格の名詞+他動詞」の連語の場合は、「ドアを開ける(物に対する働きかけ)」、「友達を褒める(人に対する働きかけ)」、「抵抗を弱める(事に対する働きかけ)」のように、それぞれ「物、人、事」に対して「対象的な結び付き」を表している。

### 1.2 「物に対する働きかけ」の中の6つのカテゴリー

奥田(1968-72:連24)<sup>1</sup>によれば、「物にたいするはたらきかけをあらわす連語では、を格の名詞が具体的な物をさししめしていて、他動詞でしめされる具体的な動作がその物に物理的にはたらきかけていく。そして、おおくのばあい、その物に物理的な変化をひきおこす。……この種の連語は、かざりとかざられとのあいだにあるむ

---

<sup>1</sup> 奥田(1968-72:連24)とは、奥田(1968-72)の論文をさし、その(連24)が論文を収録している言語学研究会編(1983)『日本語文法・連語論(資料編)』のページ24をさしている。

すびつき方のちがい、それに照応する構造的なタイプのちがいにあわせて、つぎのむつつの 카테고리にわかれていく。(a) もようがえ、(b) とりつけ、(c) とりはずし、(d) うつしかえ、(e) ふれあい、(f) 結果的な結び付き」と説明している。

その6つのカテゴリを作るのは、動詞の「カテゴリカルな意味」<sup>2</sup>によって「模様替え動詞」、「取り付け動詞」、「取り外し動詞」、「移し変え動詞」、「触れ合い動詞」、「生産性動詞」の6つの「他動詞」からである。そのような「他動詞」が「を格の名詞」と組合せて作る結び付きの用例は、(a) 模様替えの結び付き（野菜を洗う）、(b) 取り付けの結び付き（野菜をお皿に置く）<sup>3</sup>、(c) 取り外しの結び付き（野菜をお皿から取る）、(d) 移し変えの結び付き（野菜をお皿に移す）、(e) 触れ合いの結び付き（野菜を触る）、(f) 結果的な結び付き（野菜を作る）が挙げられる。

### 1.3 「物に対する働きかけ」の連語の間の移行現象

奥田（1968-72：連25）によれば、「物に対する働きかけ」を表す6つのカテゴリの連語では、「二、三の連語は、その構造を変えることによって、あるカテゴリから他のカテゴリへと容易に移行する」としている。例としては、「掘る」という動詞は、「坑道を掘る」では、「模様替え Vt」として働き、「模様替えの結び付き」を表すが、「新しい山に坑道を掘る」では、「生産性 Vt」として働き、「結果的な結び付き」を表す。

<sup>2</sup> 動詞の「カテゴリカルな意味 (categorical)」とは、同じタイプの結び付きの中で一般化できる語彙的な意味のことである。言語学研究会編（1983：12）を参照。

<sup>3</sup> 「物に対する働きかけ」を表す6つのカテゴリの連語では、(b) 取り付けの結び付き（野菜をお皿に置く）、(c) 取り外しの結び付き（野菜をお皿から取る）、(d) 移し変えの結び付き（野菜をお皿に移す）のようなものは、「飾られ」を「他動詞」に、「飾り」を「を格の名詞」にするほかに、(b) では、「お皿に」、(c) では、「お皿から」、(d) では、「お皿に」というように、「第二の対象」を表す「に格の名詞」、「から格の名詞」を必要とするのである。そのような「第二の対象」を「第2の飾り」と呼ぶ。「移し変えの結び付き」を表す連語は、「野菜をサラダボールからお皿に移す」のように、「お皿に」のような「第2の飾り」のほかに、「サラダボールから」のような「第3の飾り」を必要とする場合もある。

上述したように、「物に対する働きかけ」の連語の間の移行現象が生じたのは、連語の結び付き方の違いが構造の中に明確にやきつけられているにも拘わらず、境界を曖昧にして、カテゴリーの間を繋ぐ中間的なものがあるからと説明している。(奥田 1968-72: 連 35)

本稿では、「物に対する働きかけ」を表す6つのカテゴリーの中の「(模様替え/模様変換)動詞」から「(取り付け/放置)動詞」へ、「(模様替え/模様変換)動詞」から「(取り外し/去除)動詞」へ、そして、「(模様替え/模様変換)動詞」から「(生産性/生産)動詞」へ移行する動詞が「を格の名詞」と組合せて作る連語を考察して、その両言語の連語の移行関係を比較する。

## 2. 先行研究

中国語では、日本語の「物に対する働きかけ」の連語に関連して取り上げて論じたのは、「日中対照研究」の方(2004)が挙げられる。方(2004: 102)では、日本語と中国語の連語の体系の対応関係を表1のように示した。

表1 日本語と中国語の連語の体系の対応関係

日本語		中国語	
働きかけて 変化する 1	模様替え	変化に重点 ある表現	働きかけに重点 ある表現
	取り付け	模様替え＝変化	模様替え＝動作
	取り外し	取り付け＝変化	取り付け＝動作
	移し変え	取り外し＝変化 移し変え＝変化	取り外し＝動作 移し変え＝動作
変化しない 2	触れ合い		触れ合い＝動作
結果的 3	作り出し	作り出し＝結果	作り出し＝動作

そして、上の表については、次のような説明を加えた。

日本語では、「を格の物名詞」と「他動詞」のそれぞれのカテゴリーカルな意味(主に飾られ動詞の語彙的な意味)により、「物に対す

る働きかけ」を表すことができるが、格を持たない中国語では、その違いは主に「他動詞」のカテゴリーカルな意味とそれの構成の仕方に依拠する。中国語では、飾られになる単語（他動詞）は「単純動詞」であるか、あるいは、「合せ動詞」（動詞+補助動詞）であるかによって結び付き方が大きく変わる。「単純動詞」の場合、物に働きかける動作のみを表し、結果や状態変化までは表さないが、補助動詞が付く（合せ動詞になる）と、結果、状態変化まで表すことが可能になる。

台閩語<sup>4</sup>では、日本語の連語に相当する「他動詞と物名詞との組合せ」を中心に論じた施(2006d)が挙げられる。それは、日本語の連語との対照研究ではなく、台閩語の連語を考察するものである。その中では、台閩語の他動詞を「模様變換動詞」、「放置動詞」、「去除動詞」、「搬徙動詞」、「磕摸動詞」、「生産動詞」の6種類に分けてみた。それらの他動詞が物名詞と作った組合せは、1、「模様變換組合」、2、「放置組合」、3、「去除組合」、4、「搬徙組合」、5、「磕摸組合」、6、「作出物組合」と呼んだ。そして、3.1.1「模様變換組合」の連語形式、3.2.1「放置組合」の連語形式、3.3.1「去除組合」の連語形式、3.4.1「搬徙組合」の連語形式、3.5.1「磕摸組合」の連語形式、3.6.1「作出物組合」の連語形式のようにまとめた。(施2006d: 37-55)

そして、日本語の連語との対照研究のものではないが、本稿で論じる移行関係に関連するもので、台閩語において「模様變換動詞」と「放置動詞」との相互移行を中心に考察する施(2009a)が挙げ

---

<sup>4</sup> 台閩語とは、台湾で使われている「台湾の閩南語」の略称である。「台湾の閩南語」を略称して「台湾語(台語)」と呼ぶことも可能であるが、台湾国内という同じ地域で使われている言葉としては、「台湾の閩南語」のほかに、「台湾の客家語(客家語)」、「台湾の原住民語(原住民語)」などもあり、どれも「台湾語」と呼ばれることが可能である。その紛らわしさを避けるために、本稿では、「台湾語」ではなく、「台湾の閩南語(台閩語)」という呼称を使っている。参考文献では、許極燉(1998)は、「台灣語」を使い、楊秀芳(1991)と林慶勳(2001)は、「臺灣閩南語」を使い、盧廣誠(2003)は、「台灣閩南語」を使っている。「台灣語」より「臺灣閩南語」か「台灣閩南語」が多く使われている。台閩語の英文を Taiwan Southern Min Language とするのは、施(2007a)から使っている呼称で、その略称を頭文字の TSML とする。

られる。その中では、表2のように、「模様変換組合」及び「放置組合」への移行、表3のように、「放置組合」及び「模様変換組合」への移行をまとめた。

表2 「模様変換組合」及び「放置組合」への移行のまとめ

模様変換 Vt/模様変換 C <sup>5</sup>	模様変換 Vt→放置 Vt/放置 C
二単語「模様変換 Vt+N」	二単語「(模様変換→放置) Vt+N」
二単語「模様変換 Vt+A+N」	二単語「(模様変換 Vt+A→放置 Vt) +N」
二単語「A+模様変換 Vt+N」	三単語「(模様変換→放置) Vt+N1+tīN2」
二要素「將/ka N+模様変換 Vt+A」	三単語「tīN2+(模様変換→放置) Vt+N1」
	三要素「將/ka N1+〔模様変換 Vt+A (-tī/-佇、-tiām、-tōa) →放置 Vt〕+N2」
	三要素「將/ka N1+〔模様変換 Vt+A (倒) →放置 Vt〕+N2」、Aが「-tī/-佇、-tiām、-tōa」ではないもの
	三要素「用 N1+〔模様変換 Vt+A→放置 Vt〕+N2」

表3 「放置組合」及び「模様変換組合」への移行のまとめ

放置 Vt/放置 C	放置 Vt→模様変換 Vt/模様変換 C
三単語「Vt+N1+tīN2」	三単語「(放置→模様変換) Vt+N1+tīN2」
三単語「tīN2+Vt+N1」	
三単語「(tī) N2+Vt+N1」	

<sup>5</sup> まとめ表の上では、「模様変換組合」を「模様変換 C (Combination の C をとる)」とする。表中には、「Vt」は「他動詞 Transitive verb」の略で、「A」は「補助動詞 Auxiliary verb」の略で、「N」は「名詞 Noun」の略である。A (-tī/-佇、-tiām、-tōa) は、中国語の「在」に当るもので、(-tī、-tiām、-tōa) が白話字で、(-佇) が (-tī) の漢字である。そして、「模様変換 Vt+N」、「模様変換 Vt+A+N」のような「二単語組合」と区別して、「chiong 將/ka」を伴う「chiong 將/kaN+模様変換 Vt+A」のようなものを「二要素組合」と呼び、「(模様変換→放置) Vt+N1+tīN2」のような「三単語組合」と区別して、「chiong 將/kaN1+〔模様変換 Vt+A→放置 Vt〕+N2」のようなものを「三要素組合」と呼ぶ。(模様変換→放置) Vt 中の「矢印→」とは、模様変換動詞から放置動詞へ移行することを表す記号である。以下同じ。

三要素「將/kā N1+放置 Vt+A (-tī/-佇、-tiàm、-tòa) +N2」	三要素「將/kā N1+ (放置→模様變換) Vt+tīN2」
三要素「將 N1+放置 Vt+N2」 A (-tī/-佇、-tiàm、-tòa) が使われていないもの	
三要素「用 N1+放置 Vt+A+N2」	二単語「(放置→模様變換)Vt+N」
二単語「放置 Vt+N」	二要素「將/kā N1+ (放置→模様變換) Vt」

その後、6種類の動詞と物名詞との組合せを中心に考察する日本語・台閩語の対照研究のものは、施(2010a)「(模様替え/模様變換) Vt」、施(2011d)(2012b)(2012d)「(取り付け/放置) Vt」、施(2013a)「(取り外し/去除) Vt」、施(2013d)「(移し変え/搬徙) Vt」、施(2013c)「(触れ合い/磕摸) Vt」、そして、施(2013e)「(生産性/生産) Vt」などが挙げられる。

その中では、特に、施(2012d)では、「(取り付け/放置) Vt」から作る連語を取り上げるだけではなく、「(模様替え/模様變換) Vt」から「(取り付け/放置) Vt」への移行、「(取り外し/去除) Vt」から「(取り付け/放置) Vt」への移行、「(触れ合い/磕摸) Vt」から「(取り付け/放置) Vt」への移行によって作る連語についても論じた。そして、「取り付けの結び付き」と「放置組合」の「前置詞構造型」の連語の対応関係を表4のようにまとめた。

表4「取り付けの結び付き」と「放置組合」の「前置詞構造型」の連語の対応関係

「取り付けの結び付き」		「放置組合」の「前置詞構造型」	
「取り付け Vt」から	三単語「N1を+N2に+取り付け Vt」	「放置 Vt」から	三単語「放置 Vt+N1+tīN2(L)」
	三単語「N2に+N1を+取り付け Vt」		三単語「tīN2(L)+放置 Vt+N1」

「模様替え Vt」 からの 移行	三単語「N1 を + N2 に + (模様替え → 取り付け) Vt」	「模様 換 Vt」 からの 移行	三単語「(模様変換 → 放置) Vt + N1 + ti7N2(L)」
	三単語「N2 に + N1 を + (模様替え → 取り付け) Vt」		三単語「ti7N2(L) + (模様変換 → 放置) Vt + N1」
「取り外し Vt」 からの 移行	三単語「N1 を + N2 に + (取り外し → 取り付け) Vt」	「去 除 Vt」 からの 移行	三単語「(去除 → 放置) Vt + N1 + ti7 N2(L)」
	三単語「N2 に + N1 を + (取り外し → 取り付け) Vt」		三単語「ti7N2(L) + (去除 → 放置) Vt + N1」
「触 れ 合 い Vt」 からの 移行	三単語「N1 を + N2 に + (触れ合い → 取り付け) Vt」	「磕 摸 Vt」 からの 移行	三単語「(磕摸 → 放置) Vt + N1 + ti7N2(L)」
	三単語「N2 に + N1 を + (触れ合い → 取り付け) Vt」		三単語「ti7N2(L) + (磕摸 → 放置) Vt + N1」

### 3. 研究方法

台閩語では、研究方法は、主にインターネット辞典の《台文/華文線頂辭典》から動詞や名詞の漢字か白話字<sup>6</sup>の入力によって検索する。検索してきた連語の用例は、「模様變換動詞」、「放置動詞」、「去除動詞」、「搬徙動詞」、「磕摸動詞」、「生産動詞」の動詞別によって分類する。そして、それらの動詞は、それぞれ6つの動詞の本動詞として働くか、他の動詞へ移行することができる動詞として働くかによって、(a) 模様變換組合、(b) 放置組合、(c) 去除組合、(d) 搬徙組合、(e) 磕摸組合、(f) 作出物組合のカテゴリーの中に入れて整理する。そして、更に、分類して整理した例文を日本語の連語と比較して分析する。

<sup>6</sup> 白話字とは、台湾で伝統的に使用されているローマ字である。それを教会ローマ字又は台湾字と呼ぶこともある。最初に白話字と呼ばれたのは、一般的な口語に一番近いからだと張(2003: 72)には説明している。例えば、動詞「chhiat 切(切る)」の中の「chhiat」は、白話字である。

そのほかに、同じくインターネット辞典の《台語辞典(台日大辞典台語譯本)》<sup>7</sup>も検索に使っている。《台文/華文線頂辞典》ほど用例は多くないが、多義語の解釈を調べるのに日本語の原本のスクリーンが付いているため、役に立っている。

次に、表記法について説明する。日本語では、「取り付けの結び付き(野菜をお皿に置く)」や「取り外しの結び付き(野菜をお皿から取る)」のような用例の場合は、「飾り」を示す「野菜を」に「波線」、「第二の飾り」を示す「お皿に」や「お皿から」に「点線」、そして、「飾られ」を示す「置く」や「取る」に「二本の実線」でアンダーラインを引いて記した。そして、台閩語においては、「tī 草莓園邊 á 種 1-kóa 蔥 á (イチゴ園のそばに少しの葱を植える) (蔥 145)」のような「放置組合」や「鉸一空 tī 袋仔 (一つの穴を袋に開ける) (鉸 12)」のような「作出物組合」の用例の場合も、日本語のと同じ表記法をとっている。

#### 4. 日本語・台閩語における「物に対する働きかけ」の連語の移行関係の比較

##### 4.1 「(模様替え/模様変換) Vt」から「(取り付け/放置) Vt」へ移行する連語

まず、「(模様替え/模様変換) Vt」と「(取り付け/放置) Vt」が本動詞として働いて作るそれぞれの連語の対応関係を見る。

施(2010a: 147)では、日本語・台閩語の「模様替え動詞と物名詞との組合せ」の対応関係は、次の表5のようにまとめられている。

表5 両言語における「(模様替え/模様変換) Vt」から作る「模様替えの結び付き/模様変換組合」の対応関係

日本語	台閩語
模様替え Vt/模様替えの結び付き	模様変換 Vt/模様変換 C

<sup>7</sup> 《臺日大辭典》は、上巻 1931 年、下巻 1932 年に台湾總督府が出版したもので、小川尚義氏によって主編された。そして、インターネット辞典の《台語辞典(台日大辞典台語譯本)》は、林俊育(Lim Chun-iok)が訳したものである。

二単語「Nを+模様替え Vt」	二単語「模様変換 Vt+N」
	二単語「模様変換 Vt+A+N」
	二要素「將/kāN+模様変換 Vt+A」

そして、施（2011a：187-188）では、日本語・台閩語の「取り付けの結び付き（放置組合）」の対応関係は、表6のようにまとめられている。

表6「(取り付け/放置) Vt」から作る「取り付けの結び付き/放置組合」の対応関係

日本語	台閩語
取り付け Vt/取り付けの結び付き	放置 Vt/放置 C
二単語「Nを+装着類 Vt」	二単語「穿戴 Vt+N」
三単語「N1を+N2に+取り付け Vt」	三単語「放置 Vt+N1+ti7N2(L)」
	三要素「將/kāN1+放置 Vt+A (-ti/佇、-tiàm、-tòa)+N2(L)」
三単語「N2に+N1を+取り付け Vt」	三単語「ti7N2(L)+放置 Vt+N1」

次に、両言語において、「(模様替え/模様変換) Vt」から「(取り付け/放置) Vt」へ移行する連語の移行関係について比較する。

#### 4.1.1 移行の差異は見られなく、連語の形式も違ってないもの

日本語では、「伏せる、結ぶ、広げる、締める」のような「模様替え Vt」は、「Nを+模様替え Vt」のような「二単語の組合せ」で「模様替えの結び付き」を実現している。それに対して、「鍋を棚に伏せる、リボンをいただきに結ぶ」のように、「三単語の組合せ」の「N1を+N2に+(模様替え→取り付け) Vt」も、「食卓の上に巻紙を広げる、額に鉢巻を締める」のように、「三単語の組合せ」の「N2に+N1を+(模様替え→取り付け) Vt」も「模様替え Vt」から「取り付け Vt」へ移行する「取り付けの結び付き」を実現している。そして、「N1を+N2に+(模様替え→取り付け) Vt」を日イタイプ、「N2に+

N1 を + (模様替え→取り付け)Vt」を日ロタイプとする。

台閩語では、日イタイプの「N1 を + N2 に + (模様替え→取り付け)Vt」に対応できるのは、「關牛 tI 牛欄 (牛を牛舎に閉じ入れる) (關 353)」や「縛這頭索仔 tI 象 ê 鼻 (繩のこの端を象の鼻に縛り付ける) (縛 139)」や「th,°一粒鈕仔 ti7 我 e5 內衫 (1つのボタンを私の下着に縫い付ける) (th,°59)」のように、「ti7N2(L)後接型」の「三単語組合」の「(模様變換→放置)Vt+N1+ti7N2(L)」で、台甲タイプとする。この台甲タイプのものは、「模様變換 Vt」から「放置 Vt」へ移行して「放置組合」を実現する。

そして、日ロタイプの「N2 に + N1 を + (模様替え→取り付け)Vt」に対応できるのは、「tI 我 嚙 喉 頂 thài1 刀 (私の喉の上に1切りを切り付ける) (thài492)」や「伊 tI 褲頭 結 一個 酒皮囊 (彼はズボンの腰の所に皮製の酒入れを結び付ける) (結 2)」のように、「ti7N2(L)前接型」の「三単語組合」の「ti7N2(L)+(模様變換→放置)Vt+N1」で、台乙タイプとする。この台乙タイプのものも、「模様變換 Vt」から「放置 Vt」へ移行して「放置組合」を実現する。

#### 4.1.2 移行の差異は見られなく、連語の形式が違っているもの

台閩語では、「將 紅色 絲帶 結 佇 阮 胸前 (赤いリボンを私の胸元に結び付ける) (帶 908)」や「ka 伊 縛 tiàm 柱仔 (彼を柱に縛りつける) (縛 126)」や「將 hā 腰布 曝 tōa 厝頂 (腰の布を屋上に干す) (曝 95)」のようなものは、「三要素組合」の「將/kaN1+[模様變換 Vt+A(-ti/-佇、-tiàm、-tōa)→放置 Vt]+N2」で、「模様變換 Vt」から「放置 Vt」へ移行して、「放置組合」を実現する。それを台丙タイプとする。この台丙タイプのものは、連語の形式が日イタイプと違っているが、移行の差異は見られないため、台丙(≒日イ)タイプという(≒)記号を使っている。

#### 4.1.3 移行の差異は見られなく、台甲=台乙、台乙=台甲が移行できるもの

4.1.1 に述べたように、日イタイプの「N1 を+N2 に+ (模様替え→取り付け) Vt」に台甲タイプの「(模様変換→放置)Vt+N1+ti7N2(L)」のものが対応する(台甲(日イ))。また、日ロタイプの「N2 に+N1 を+ (模様替え→取り付け) Vt」に台乙タイプの「ti7N2(L)+(模様変換→放置)Vt+N1」のものが対応する(台乙(日ロ))。

ところが、日イタイプの「N1 を+N2 に+ (模様替え→取り付け) Vt」と日ロタイプの「N2 に+N1 を+ (模様替え→取り付け) Vt」とは、語順の差で、意味はそんなに違わない(日イ=日ロ)が、台甲タイプの「(模様変換→放置)Vt+N1+ti7N2(L)」と台乙タイプの「ti7N2(L)+(模様変換→放置)Vt+N1」とは、移行の差異は見られなく、台甲=台乙、台乙=台甲が移行できるものもあるが、移行の差異が顕著で、台甲≠台乙、台乙≠台甲が移行できないものもある。

移行の差異は見られないものは、4.1.1にも挙げた例①のように、  
 ①「縛這頭索仔 tI 象 ē 鼻 (繩のこの端を象の鼻に縛り付ける)」(台甲(日イ)) = 「tI 象 ē 鼻 縛這頭索仔 (象の鼻に繩のこの端を縛り付ける)」(台乙(日ロ))

また、次のような例②も挙げられる。

②「tI 我嚙喉頂 thai1 刀 (私の喉の上に1切りを切り付ける)」(台乙(日ロ)) = 「thai1 刀 tI 我嚙喉頂 (私の喉の上に1切りを切り付ける)」(台甲(日イ))

#### 4.1.4 移行の差異は顕著で、台甲≠台乙、台乙≠台甲が移行できないもの

移行の差異が顕著で、台甲≠台乙、台乙≠台甲が移行できないものは、「關牛 tI 牛欄 (牛を牛舎に閉じ入れる) (關 353)」(台甲(日イ)) ≠ 「tI 牛欄 關牛 (牛舎で牛を閉じる)」という例が挙げられる。次にその顕著な移行の差異について述べる。

「關牛 (牛を閉じる)」という「模様変換 Vt+N」の二単語の「模様変換組合」は、「tI 牛欄 (牛舎に)」を第二対象とする場合には、

「ti7N2(L)」を「後接型」にする「關牛 tI 牛欄（牛を牛舎に閉じ入れる）」と「ti7N2(L)」を「前接型」にする「tI 牛欄關牛（牛舎で牛を閉じる）」がある。

「關牛 tI 牛欄（牛を牛舎に閉じ入れる）」（台甲（日イ））は、「後接型」の「ti7N2(L)」が取り付ける（そこに置く）場所を示しており、「模様變換組合」から「放置組合」へ移行していくものである。それに対して、「ti7N2(L)」を「前接型」にする「tI 牛欄關牛（牛舎で牛を閉じる）」は、「tI 牛欄（牛舎で）」が動作を行う空間的な場所を示しており、「模様變換組合」から「空間場所組合」へ移行していくものである。その移行によって、「ti7 牛欄關牛（牛舎で牛を閉じる）」は、台乙（日ロ）タイプの連語形式と違っていないように見えるが、実際は、移行の差異が顕著で、連語が違っているものとなる。ここでは、それを台丁（日ハ）タイプとする。

両言語において、「（模様替え/模様變換）Vt」から「（取り付け/放置）Vt」へ移行する連語の移行関係は表7にまとめられる。

表7 両言語において、「（模様替え/模様變換）Vt」から「（取り付け/放置）Vt」へ移行する連語の移行関係

日本語	台閩語	
（模様替え→取り付け）Vt/取り付けの結び付き	（模様變換→放置）Vt/ 放置組合	
三単語「N1を+N2に+（模様替え→取り付け）Vt」日イタイプ 「鍋を棚に <u>伏せる</u> 、 <u>リボン</u> を <u>いただき</u> に <u>結ぶ</u> 」	移行差異はなく、形式も違っていないもの	三単語「（模様變換→放置）Vt+N1+ti7N2(L)」 「ti7N2(L)後接型」 台甲（日イ）タイプ 「 <u>關牛 tI 牛欄</u> （牛を牛舎に閉じ入れる）」（關 353）、 <u>縛這頭索仔</u> <u>tI 象 e 鼻</u> （繩のこの端を象の鼻に縛り付ける）（縛 139）、 <u>th<sub>u</sub>°一</u>

		<p>粒鈕仔 ti7 我 e5 內衫 (1つのボタンを私の下着に縫い付ける) (th,,°59) 」</p>
	<p>移行差 異はな く、形式 が違っ ている もの</p>	<p>三要素「將/kā N1+ (模様變換→放置) Vt+A (tI/tiàm/tòà) + N2」 台丙 (≡日イ) タイプ 「將紅色絲帶結佇阮胸前 (赤いリボンを私の胸元に結び付ける) (帶 908)、kā 伊縛 tiàm 柱仔 (彼を柱に縛りつける) (縛 126)、將 hā 腰布曝 tòà 厝頂 (腰の布を屋上に干す) (曝 95)」</p>
	<p>移行差 異はな く、台甲 =台乙 が移行 できる もの</p>	<p>台甲(日イ)=台乙(日ロ)タイプ 「縛這頭索仔 tI 象 ê 鼻 (繩のこの端を象の鼻に縛り付ける)」 = 「tI 象 ê 鼻縛這頭索仔 (象の鼻に繩のこの端を縛り付ける)」、「th,,°一粒鈕仔 ti7 我 e5 內衫 (1つのボタンを私の下着に縫い付ける) 」 =「ti7 我 e5 內衫 th,,°一粒鈕仔 (私の下着に1つのボタンを縫い付ける) 」</p>
<p>三単語「N2に+ N1を+ (模様替え→取り付け) Vt」日ロタイプ 「<u>食卓の上に卷紙を</u> <u>広げる、額に鉢巻を締</u> <u>める</u>」</p>	<p>移行差 異はな く、形式 も違っ ていな いもの</p>	<p>三単語「ti7N2(L)+ (模様變換→放置)Vt+N1」 「ti7N2(L)前接型」 台乙 (日ロ) タイプ 「tI 我嚙喉頂 thài1 刀 (私の喉の上に1切りを切り付ける) (thài492)、伊 tI 褲頭結一個酒皮囊 (彼はズボンの腰の所に皮製</p>

<p>移行差 異はな く、台乙 =台甲 が移行 できる もの</p>	<p>の酒入れを結び付ける) (結 2)」</p> <hr/> <p>台乙(日ロ) = 台甲(日イ)タイプ 「<u>tɪ 我嚙喉頂 thài1 刀</u> (私の喉 の上に<u>1 切りを切り付ける)</u>」 = 「<u>thài1 刀 tɪ 我嚙喉頂</u> (私の喉 の上に<u>1 切りを切り付ける)</u>」、「<u>tɪ</u> <u>褲頭結一個酒皮囊</u> (ズボンの腰の 所に皮製の酒入れを<u>結び(付け る)</u>) = 「<u>結一個酒皮囊 tɪ 褲頭</u> (ズ ボンの腰の所に皮製の酒入れを <u>結び(付ける)</u>)」</p>
<p>移行差 異は顕 著、台甲 ≠台乙、 台乙≠ 台甲が 移行で きない もの</p>	<p>台丁(日ハ) ≠ 台乙(日ロ) ≠ 台甲(日イ)タイプ 三単語「<u>ti7N2(L) + (模様変換→ 動作)Vt + N1</u>」 「<u>ti7N2(L) 空間場 所</u>」 「<u>ti7 牛欄關牛</u> (牛舎で<u>牛を閉じ る</u>) ≠ *<u>ti7 牛欄關牛</u> (*牛舎に 牛を閉じ入れる)」 ≠ 「<u>關牛 tɪ</u> <u>牛欄</u> (牛を牛舎に<u>閉じ入れる</u>)」</p>

#### 4.2 「(模様替え/模様変換) Vt」から「(取り外し/去除) Vt」へ 移行する連語

まず、「(模様替え/模様変換) Vt」と「(取り外し/去除) Vt」が本動詞として働いて作る連語の対応関係を見る。4.1の表5に述べた「(模様替え/模様変換) Vt」は、ここでは、それを省く。

施(2013a: 244-247)では、両言語における「(取り外し/去除)動詞と物名詞との組合せ」の対応関係は、表8のようにまとめられている。

表 8 両言語における「(取り外し/去除) Vt」から作る「取り外しの結び付き/去除組合」の対応関係

「取り外しの結び付き」		「去除組合」	
イ①	三単語「N2 から + N1 を + 取り外し Vt」	乙①	三単語「 $\dot{u}i/t\dot{u}iN2(L) + 去除 Vt + N1$ 」
		乙②	三単語「 $\dot{u}i/t\dot{u}iN2(L) + 去除 Vt + 補助 Vt(-倒) + N1$ 」
		乙③	三要素「 $\dot{u}i/t\dot{u}iN2(L) + 將/kaN1 + 去除 Vt + 補助 Vt(去)$ 」
イ②	三単語「N1 を + N2 から + 取り外し Vt」		
イ③	三単語「N2 の、N2 に + N1 を + 取り外し Vt」	甲④	二要素「 $將/kaN + 去除 Vt + 補助 Vt(起來/落來/開/掉)$ 」
ロ	二単語「N を + 取り外し Vt」	甲①	二単語「 $去除 Vt + N$ 」
		甲②	二単語「 $去除 Vt + 補助 Vt(-開) + N$ 」
		甲③	二単語「 $去除 Vt + N + 補助 Vt(落來)$ 」
		甲④	二要素「 $將/kaN + 去除 Vt + 補助 Vt(起來/落來)$ 」

日本語では、「取り外しの結び付き」の連語は、主にイ①、イ②、イ③のような「三単語の組合せ」で表しているのに対して、台閩語では、「去除組合」を実現する連語は、主に甲①、甲②、甲③のような「二単語組合」、或は、甲④のような「二要素組合」で表している。また、台閩語には、乙①、乙②のような「三単語組合」や乙③のような「三要素組合」の例はあるが、主にイ①、イ②、イ③の「三単語の組合せ」で実現する日本語に比べて、例は少ない。また、日本語は、ロのような「二単語の組合せ」の例はあるが、主に甲①、

甲②、甲③の「二単語組合せ」や甲④の「二要素組合」で実現する台閩語に比べて、例は少ない。

次に、両言語において、「(模様替え/模様変換) Vt」から「(取り外し/去除) Vt」へ移行する連語の移行関係について比較する。

#### 4.2.1 移行の差異は見られなく、連語の形式も違ってないもの

##### 4.2.1.1 日ロ①タイプに対応する台甲①タイプのもの

奥田(1968-72:連32)によれば、“刈る、剃る、ちぎる”のような動詞は、「模様替えの結び付き」と「取り外しの結び付き」との2つを作る能力があるとしている。「頭を刈る(模様替えの結び付き)」のように、「二単語の組合せ」の「Nを+模様替え Vt」は、「頭の状態変化を引き起こして、「髪を刈る」ということを表している。「頭を刈る」から「髪を刈る」へは、「刈る」という動詞の移行(模様替え Vt→取り外し Vt)を起こして、「Nを+単純(模様替え→取り外し) Vt」で「取り外しの結び付き」を表している。それを日ロ①タイプとする<sup>8</sup>。

それに対して、台閩語においても、同じく「模様変換組合」と「去除組合」との2つの能力を作る動詞は、「剪(切る、切り取る)、割(切る、刈る、切り取る)、拆(開ける、取り除く)」のようなものが挙げられる。「剪布(布を切る)(剪11)」や「割喉(喉を切る)(割156)」や「拆第3張e批(3枚目の手紙を開ける)(拆30)」のように、「二単語組合」の「模様変換 Vt+N」は、「模様変換組合」を表している。

そして、「剪頭髮(髪の毛を切り取る)(剪51)」や「(割68) 割草(草を刈る)」や「(拆154) 拆古厝(古い家屋を取り除く)」の

<sup>8</sup> 日本語では、「取り外しの結び付き」の連語は、主に「三単語の組合せ」で表している。それに対して、台閩語では、「去除組合」を実現する連語は、主に「二単語組合せ」、或は、「二要素組合」で表している。そのため、主となる日本語の「三単語の組合せ」を日イタイプ、主ではない日本語の「二単語の組合せ」を日ロタイプ、そして、主となる台閩語の「二単語組合せ」、「二要素組合」を台甲タイプ、主ではない台閩語の「三単語組合」を台乙タイプとする。

ように、「二単語組合」の「(模様変換→去除) Vt+N」は、「去除組合」を表している。それを台甲①タイプとする。

#### 4.2.1.2 日ロ②タイプに対応する台甲②タイプのもの

移行の差異は見られなく、連語の形式も違っていないものは、日ロ①タイプに対応する台甲①タイプのほかに、次に述べる日ロ②タイプに対応する台甲②タイプも挙げられる。

奥田(1968-72: 連32)によれば、“洗い落とす、切り落とす、ちぎり取る”のように、二三の「模様替え動詞」は、単語作りの手続きを通して、「取り外し動詞」に移行しているとしている。例としては、「手ぬぐいにくっついたご飯つぶを洗い落とす」だけが挙げられている。そこで、金田一、山田等編(1997)『新明解国語辞典(第五版)』から「顔を洗う(p.39)、糸を切る(p.363)、下枝を切り落とす(p.361)、紙をちぎる(p.889)」などの例をもう少し調べた。

「単純動詞」の“洗う、切る、ちぎる”の「模様替え動詞」から作る「模様替えの結び付き」は、「二単語の組合せ」の「Nを+模様替え Vt」で表すが、「合せ動詞」の“洗い落とす、切り落とす、ちぎり取る”の「取り外し動詞」から作る「取り外しの結び付き」は、「二単語の組合せ」の「Nを+合せ(模様替え→取り外し) Vt」で表す。それを日ロ②タイプとする。

それに対して、台閩語では、「剪(切る)」という「模様変換動詞」は、補助動詞「斷(断ち切る)」を伴って、合せ動詞「剪斷(切り取る)」となる「去除動詞」に移行する場合も挙げられる。それは、「剪斷臍帶(臍の緒を切り取る)」のように、日本語と同様に、「二単語組合」の「(模様変換 Vt+A) → 去除 Vt+N」で「去除組合」を表すことができる。それを台甲②タイプとする。

#### 4.2.1.3 日イタイプに対応する台乙タイプのもの

日本語では、本動詞の「取り外し Vt」から作る「取り外しの結び付き」は、主に「N2 から + N1 を + 取り外し Vt」や「N1 を + N2 から

+取り外し Vt」の「三単語の組合せ」で表すのに対して、「模様替え Vt」から「取り外し Vt」へ移行して作る「取り外しの結び付き」は、「N2 から+N1 を+（模様替え→取り外し） Vt 」や「N1 を+N2 から+（模様替え→取り外し） Vt」からの例は、今のところでは、見られない。

元々、本動詞の「去除 Vt」から「三単語組合」ではなく、主に「二単語組合」や「二要素組合」で「去除組合」を表す台閩語では、「模様変換 Vt」から「去除 Vt」へ移行して作る「去除組合」は、日イタイプに台乙タイプが対応している。

#### 4.2.2 移行の差異は見られなく、連語の形式が違っているもの

##### 4.2.2.1 日ロ②タイプに対応する台甲③タイプのもの

しかし、次に挙げる台甲③タイプと台甲④タイプは、日ロ②タイプとは、移行の差異は見られなく、連語の形式が違っているものである。

台甲③タイプとなるのは、「二単語組合」の「合せ（模様変換→去除）Vt+N+A」の「tháu 嬰仔落來（赤ちゃんを取り放す）（tháu49）」が挙げられる。その例の中の「tháu」は、《台語辭典（台日大辭典台語譯本）》の 59411 番、そして、原本スキャン B0024 ページによる調べで、「解く、紐解く」という意味を表すため、「模様変換動詞」に属する。この「tháu」は、後ろに来る「補助動詞(A)」の「落來」と組合さって、「合せ動詞」の「tháu 落來（解いて取り外す）」という意味を表すため、「去除動詞」に属する。

##### 4.2.2.2 日ロ②タイプに対応する台甲④タイプのもの

台甲④タイプとなるのは、「二要素組合」の「將/kaN+(模様変換 Vt+A)→去除 Vt」の「kā 臍帶剪斷（臍の緒を切り取る）（剪 44）」、または、「kā 庄正身軀頂 e 索 á tháu 開（庄正さんの体の縄を解き放す）（tháu67）」が挙げられる。

両言語において、「（模様替え/模様変換） Vt」から「（取り外し/

去除) Vt」へ移行する連語の移行関係は表 9 にまとめられる。

表 9 両言語において、「(模様替え/模様変換) Vt」から「(取り外し/去除) Vt」へ移行する連語の移行関係

日本語	台閩語	
(模様替え→取り外し)Vt/取り外しの結び付き	(模様変換→去除)Vt/去除組合	
二単語「Nを+単純(模様替え→取り外し)Vt」 日口①タイプ 「 <u>頭を刈る</u> 」→「 <u>髪を刈る</u> 」	移行差異はなく、形式も違っていないもの	二単語「単純(模様変換→去除)Vt+N」 台甲①タイプ 「 <u>剪布(布を切る)</u> (剪 11)」→「 <u>剪頭髮(髪を切り取る)</u> (剪 51)」、「 <u>割喉(喉を切る)</u> (割 156)」→「 <u>割草(草を刈る)</u> (割 68)」、「 <u>拆第3張e批(3枚目の手紙を開ける)</u> (拆 30)」→「 <u>拆古厝(古い家屋を取り除く)</u> (拆 154)」
二単語「Nを+合せ(模様替え→取り外し)Vt」 日口②タイプ 「 <u>顔を洗う</u> 」→「 <u>手ぬぐいにくっついたご飯つぶを洗い落とす</u> 」、 「 <u>糸を切る</u> 」→「 <u>下枝を切り落とす</u> 」、「 <u>紙をちぎる</u> 」など。		移行差異はなく、形式も違っていない物
	移行差異はなく、形式が違っているもの	二単語「合せ(模様変換→去除)Vt+N+A」 台甲③タイプ 「 <u>tháu 嬰仔落來(赤ちゃんを取り外す)</u> (tháu49)」 二要素「將/kaN+(模様変換 Vt+A)→合せ去除 Vt」 台甲④タイプ 「 <u>ka 臍帶剪斷(臍の緒を切り取</u>

		る) (剪 44)」、 <u>kā 庄正身軀頂 ē 索</u> <u>ā tháu 開</u> (庄正さんの体の繩を解 <u>き放す</u> ) (tháu67)」
三単語「N2 から + N1 を + (模様替え→取り外 し) Vt」 日イタイプ 奥田 (1968-72: 連 31- 32) では、例は見られ ない。	移行差 異はな く、形 式も違 ってい ない物	三単語「 <u>tui/tuiN2(L)</u> + (模様變 換→去除)Vt + N1」 台乙タイプ 「 <u>tui 衫割兩粒鈕仔</u> (服から二つ のボタンを切り取る) (割 73)」

#### 4.3 「(模様替え/模様變換) Vt」から「(生産性/生産) Vt」へ移 行する連語

まず、「(模様替え/模様變換) Vt」と「(生産性/生産) Vt」が本  
動詞として働いて作るの連語の対応関係を見る。4.1の表5に述べ  
た「(模様替え/模様變換) Vt」は、ここでは、それを省く。

施(2013e: 13-16)では、両言語における「(生産性/生産) 動詞と  
物名詞との組合せ」の対応関係は、表10のようにまとめられている。

表10 「(生産性/生産) Vt」から作る「結果的な結び付き/作出物  
組合」の対応関係

生産性 Vt/結果的な結び付き	生産 Vt/作出物 C
イ 2 二単語 <sup>9</sup> 「N を(生産物) + 生産性 Vt」	甲 2 二単語 「生産 Vt + N(生産物)」
ロ 3 三単語「N2 で(原料/材料) + N1 を(生産物) + 生産性 Vt」	甲 3①三単語「用 N2(原料/材料) + 生産 Vt + N1(生産物)」
ハ 3 三単語「N2 に(対象の現れる 場所) + N1 を(生産物) + 生産性 Vt」	甲 3②三単語「 <u>tīN2</u> (作り出し物 の場所) + 生産 Vt + N1(生産物)」

<sup>9</sup> 施(2013e)による対応関係の表では、日本語も台閩語も同じく「二単語の  
組合せ」を2、「三単語の組合せ」を3に分けるが、日本語においては、イ類、  
ロ類、ハ類に、台閩語においては、「二要素組合」や「三要素組合」と区別し  
て、「二単語組合」も「三単語組合」も甲類に分類する。

	甲 3③ 三単語 「生産 Vt+N1(生産物)+ tIN2 (作り出し物の場所)」
--	---

そして、表 10 については、次のような説明が加えられている。

「二単語の組合せ」においては、日本語のイ 2 「N を + 生産性 Vt」に台閩語の甲 2 「生産 Vt+N」が対応している。「三単語の組合せ」においては、日本語では、ロ 3 「N2 で + N1 を + 生産性 Vt」の例もハ 3 「N2 に + N1 を + 生産性 Vt」の例もあるのに対して、台閩語では、ロ 3 「N2 で + N1 を + 生産性 Vt」に甲 3① 「用 N2 + 生産 Vt + N1」が対応しており、ハ 3 「N2 に + N1 を + 生産性 Vt」に甲 3② 「tIN2 + 生産 Vt + N1」が対応している。

ところが、台閩語では、甲 3③ 「生産 Vt + N1 + tIN2」の例も見られるが、それに対応する日本語の例は見当たらない。

次に、両言語において、「(模様替え/模様変換) Vt」から「生産性/生産) Vt」へ移行する連語の移行関係について比較する。

#### 4.3.1 移行の差異は見られなく、連語の形式も違っていかないもの

日本語では、「银杏返しを結う、ご飯を炊く、姉さまを畳む」のように、「二単語の組合せ」の「N1 を (生産物) + (模様替え → 生産性) Vt」で「結果的な結び付き」を実現することができる。それを前述した注 10 に習って、日イ 2 タイプとする。

そして、「髪で银杏返しを結う、お米でご飯を炊く」のように、「三単語の組合せ」の「N2 で (原料/材料) + N1 を (生産物) + (模様替え → 生産性) Vt」で「結果的な結び付き」を実現している。それを日ロ 3 タイプとする。

それに対して、台閩語では、「挖地道 (地下道を掘る) (挖 124)」、「炊雞卵糕 (ケーキを蒸す) (炊 35)」、「煮飯 (ご飯を炊く) (煮 8)」のように、「模様変換 Vt」から「生産 Vt」へ移行して作る「二単語組合」の「(模様変換 → 生産) Vt + N」の「作出物組合」も挙げられる。それを台甲 2 タイプとする。

そして、日ロ 3 タイプに台閩語の「用 N2 (原料/材料)+ 模様變換 →生産) Vt+N2 (生産物)」の「用米煮飯」のような例が対応できる。それを台甲 3①とする。

また、日本語では、「新しい山に坑道を掘る」や「釜の底に穴を開ける」のように、「模様替え Vt」から「生産性 Vt」へ移行して作る「三単語の組合せ」の「N2 に+ N1 を+ (模様替え→生産性) Vt」は、「結果的な結び付き」を実現している。それを日ハ 3 タイプとする。台閩語では、それに対応して「作出物組合」を実現するのは、「tI 土脚挖一空(地面に一つの穴を掘る) (挖 111)」のように、「三単語組合」の「模様變換 Vt」から「生産 Vt」へ移行して作る「tIN2+(模様變換→生産) Vt+N1」が挙げられる。それを台甲 3②タイプとする。

#### 4.3.2 日本語では、例は見当たらず、台閩語の連語の形式が違っているもの

台閩語では、「鉸一空 tI 袋仔(一つの穴を袋に開ける) (鉸 12)」、「挖一空 tI 大樹下(一つの穴を大きい木の下に掘る) (挖 21)」のような例は、「三単語組合」の「(模様變換→生産) Vt+ N1+tI N2」で「模様變換 Vt」から「生産 Vt」へ移行して「作出物組合」を実現するものが見られる。それを台甲 3③タイプとする。それに対応する日本語の「N1 を(生産物)+ N2 に(対象の現れる場所)+(模様替え→生産性) Vt」の例は見当たらない。

両言語において、「(模様替え/模様變換) Vt」から「(生産性/生産) Vt」へ移行する連語の移行関係は表 11 にまとめられる。

表 11 両言語において、「(模様替え/模様變換) Vt」から「生産性/生産) Vt」へ移行する連語の移行関係

日本語	台閩語
(模様替え→生産性) Vt/ 結果的な結び付き	(模様變換→生産) Vt/ 作出物組合

<p>二単語日イ 2タイプ 「Nを+(模様替え→生産性)Vt」 「<u>银杏返しを結う</u>」、「<u>ご飯を炊く</u>」、「<u>姉さまを畳む</u>」</p>	<p>移行差異はなく、形式も違っていないもの</p>	<p>二単語台甲 2タイプ 「(模様変換→生産)Vt+N」 「<u>挖地道(地下道を掘る)</u>(挖 124)」、「<u>炊雞卵糕(ケーキを蒸す)</u>(炊 35)」、「<u>煮飯(ご飯を炊く)</u>(煮 8)」</p>
<p>三単語日ロ 3タイプ 「N2で(原料/材料)+N1を(生産物)+(模様替え→生産性)Vt」 「<u>髪で银杏返しを結う</u>」、「<u>お米でご飯を炊く</u>」、「<u>千代紙で姉さまを畳む</u>」</p>		<p>三単語台甲 3①タイプ 「用N2(原料/材料)+模様変換→生産)Vt+N2(生産物)」 「<u>用米煮飯</u>」</p>
<p>三単語日ハ 3タイプ 「N2に(対象の現れる場所)+N1を(生産物)+(模様替え→生産性)Vt」 「<u>新しい山に坑道を掘る</u>」、「<u>釜の底に穴を開ける</u>」</p>		<p>三単語台甲 3②タイプ 「tIN2+(模様変換→生産)Vt+N1」 「<u>tI土脚挖一空(地面に一つの穴を掘る)</u>(挖 111)」</p>
	<p>日本語の例はなく、台閩語の形式が違っている物</p>	<p>三単語台甲 3③タイプ 「(模様変換→生産)Vt+N1+tIN2」 「<u>鉸一空 tI 袋仔(一つの穴を袋に開ける)</u>(鉸 12)」、「<u>挖一空 tI 大樹下(一つの穴を大きい木の下に掘る)</u>(挖 21)」</p>

## 5. 終わりに

「(模様替え/模様変換)Vt」から「(取り付け/放置)Vt」へ移

行する連語を比較することについて、表 7 から両言語の特色が見られる。まず、語順の差で、意味はそんなに違わない「三単語の組合せ」の日イタイプと日ロタイプであるが、それぞれに対応する台閩語の連語は異なっている。日イタイプに「三単語組合」の台甲タイプ、または、連語形式が違っている「三要素組合」の台丙（≒日イ）タイプ、または、台甲＝台乙の移行できるものなどが対応している。そして、日ロタイプに「三単語組合」の台乙タイプ、または、台乙＝台甲の移行できるものが対応するほかに、特に、台閩語では、連語形式が台乙（日ロ）タイプに違ってはいないように見える台丁（日ハ）タイプは、移行の差異が顕著で、台丁（日ハ）≠台乙≠台甲の移行できないものがあるという特色をもっている。

「（模様替え/模様変換）Vt」から「（取り外し/去除）Vt」へ移行する連語を比較することについて、表 9 から移行の差異はられない。連語の形式も違っていないものは、日ロ①タイプに台甲①タイプが対応し、日ロ②タイプに台甲②タイプが対応するが、移行の差異は見られなく、連語の形式が違っているものは、日ロ②タイプに対応していない台甲③タイプと台甲④タイプが挙げられる。また、日イタイプに台乙タイプが対応していることなどが考察できた。

そして、「（模様替え/模様変換）Vt」から「（生産性/生産）Vt」へ移行する連語を比較することについて、表 11 から移行の差異は見られなく、連語の形式も違っていないものは、日イ 2 タイプに台甲 2 タイプが対応し、日ロ 3 タイプに台甲 3①タイプが対応し、日ハ 3 タイプに台甲 3②タイプが対応しているが、日本語の例は見られなく、台閩語の形式が違っているものは、台甲 3③タイプが挙げられることなどが考察できた。

【付記】本稿は、2014 年 3 月 22 日に「2014 年大葉大学応用日本語学科国際シンポジウム」で口頭発表したものを再修正したものである。そして、102 学年度國科會の專題研究計画の補助（計畫編號：NSC102-2410-H-212-002-）による研究成果の一部である。ここで感

謝の意を表したい。

### 参考文献 (50 音順)

- 奥田靖雄 (1960) 「を格のかたちをとる名詞と動詞とのくみあわせ」  
『日本語文法・連語論 (資料編)』東京、むぎ書房、pp. 151-279
- 奥田靖雄 (1968-72) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」『日本語文法・連語論 (資料編)』東京、むぎ書房、pp. 21-149
- 奥田靖雄 (1976) 「言語の単位としての連語」『ことばの研究・序説』東京、むぎ書房、pp. 67-84
- 奥田靖雄 (1985) 『ことばの研究・序説』東京、むぎ書房、pp. 1-321
- 許極燉著 (1998) 『台灣語概論』台北、前衛出版社、pp. 1-475
- 金田一京助、山田忠雄等編 (1997) 『新明解国語辞典 (第五版)』、初版 1972、東京、三省堂、pp. 1-1557
- 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』東京、むぎ書房、pp. 1-493
- 施淑惠 (2006d) 「日本語の連語に相当する台閩語の連語を考察する－他動詞と物名詞 (具体物を表す名詞) との組合せを中心に－」  
『対照言語学研究』第 16 号、東京、海山文化研究所、pp. 33-59
- 施淑惠 (2007a) 「日本語の連語に基づいて台閩語の語法を考察する－「(動詞+名詞) 構造」を中心に－」『大葉應用日語學報』創刊號、2007. 01 大葉大學應用日語學系出版、pp. 138-168
- 施淑惠 (2009a) 「台湾閩南語の連語の移行関係を考察する－「模様變換動詞」と「放置動詞」との相互移行を中心に－」『日語研究論文集－日語研究的新視野－』、台北、致良出版社、pp. 293-313
- 施淑惠 (2010a) 「日本語・台閩語の「模様替え動詞と物名詞との組合せ」の比較」『日本語形態の諸問題－鈴木泰先生東京大学ご退官記念論集』、東京、ひつじ書房、pp. 139-150
- 施淑惠 (2011a) 「日本語・台閩語の「取り付けの結び付き (放置組合)」の連語の比較－台閩語の「將/ka7N1+Vt+A (ti7/tiam3/toa3) + N2」を中心に－」 (2011. 05. 28-29) 「日本語學會 2011 年度春季

- 大會」口頭發表論文、日本語學會・日本神戸大學研究所人文學研究科主辦、pp. 187-194
- 施淑惠 (2011d) 「日本語・台閩語の「取り付けの結び付き(放置組合)」の連語の比較－「Vt+N1+ti7N2(L)」の「ti7N2(L)後接型」と「ti7N2(L)+Vt+N1」の「ti7N2(L)前接型」を中心に－」『2011年度日語教學實踐報告集』、2011. 12 台灣日語教育學會出版、pp. 85-97
- 施淑惠 (2012b) 「日本語・台閩語の「取り付けの結び付き(放置組合)」の連語の比較－両言語の方位詞の使用状態についての考察－」『大葉應用日語學報』第6期、pp. 93-122、2012. 07 大葉大學應用日語學系出版、pp. 85-97
- 施淑惠 (2012d) 「日本語・台閩語の「取り付けの結び付き(放置組合)」の連語の比較－「Vt+N1+ti7N2(L)」と「ti7N2(L)+Vt+N1」の「(飾られ)Vt」による考察－」『2012年度日語教學實踐報告集』、2012. 12 台灣日語教育學會出版、pp. 3-17
- 施淑惠 (2013a) 「日本語・台閩語における連語の対照研究－「取り外し動詞(去除動詞)と物名詞との組合せ」を中心に－」『日本言語文藝研究』第13號、2013. 02 台南、台灣日本語言文藝研究學會、pp. 227-252
- 施淑惠 (2013c) 「日本語・台閩語における連語の対照研究－「触れ合い動詞(磕摸動詞)と物名詞との組合せ」を中心に－」(2013. 11. 30) 「台灣日本語言文藝研究學會第13回定例學會－日本語文化研究國際學術研討會－」口頭發表、台南、台灣日本語言文藝研究學會、長榮大學應用日語研究所、應用日語學系主辦、pp. 38-48
- 施淑惠 (2013d) 「日本語・台閩語における連語の対照研究－「移し変え動詞(搬徙動詞)と物名詞との組合せ」を中心に－」『台灣日語教育學報』第二十一號、2013. 12 台北、台灣日語教育學會出版、pp. 166-195
- 施淑惠 (2013e) 「日本語・台閩語における連語の対照研究－「生産性動詞(生産動詞)と物名詞との組合せ」を中心に－」(2013. 12. 07) 「お茶の水女子大学第47回日本語文化学会」口頭發表、

- 東京、お茶の水女子大学日本言語文化学研究会、pp. 13-16
- 施淑惠 (2014a) 「日本語・台閩語における連語の対照研究－「物に対する働きかけ」の連語の様々な移行関係を考察する－」(2014. 03. 22) 「2014年大葉大學應用日語學系國際學術研討會(日語的研究・教學・應用)」口頭発表、彰化県、大葉大学応用日本語学科主催、pp. 124-141
- 施淑惠 (2014b) 「日本語・台閩語における連語の対照研究－「触れ合い動詞(磕摸動詞)と物名詞との組合せ」を中心に－」『日本語文藝研究』第14号、2014. 03 台南、台湾日本語言文藝研究學會發行、pp. 51-63
- 《台文/華文線頂辭典》  
<http://210.240.194.97/iug/Ungian/Soannteng/chil/Taihoa.asp>  
白話字通用碼介面、鄭良偉教授資料提供、楊允言教授コンピューター処理設計、劉杰岳氏 Taiwanese Serif 字型提供、暗光鳥 ê 厝 Asc2TP 数字転調符号コンピューター処理
- 《台語辭典(台日大辭典台語譯本)》<http://taigi.fhl.net/dict/> 林俊育訳、抛荒台語文工作室提供
- 張學謙 (2003) 「東是東，西是西，永遠 BĒ SIO-TÚ?－台灣人對台語文字 ê 態度研究」『台灣民族普羅大眾 ê 語文－白話字』、高雄、台灣羅馬字協會、pp. 66-93
- 陳修編著 (2000) 『臺灣話大詞典【修訂新版】』台北、遠流、pp. 1-2092
- 方美麗 (2004) 『物に対する働きかけを表す連語－日中対照研究－』東京、海山文化研究所、pp. 1-133
- 松本泰丈編 (1978) 『日本語研究の方法』東京、むぎ書房、pp. 1-358
- 楊秀芳著 (1991) 『臺灣閩南語語法稿』台北、大安出版社、pp. 1-317
- 劉月華、潘文娛、故韓原著 (1996) 『實用現代漢語語法』繁体字版：鄧守信画策、台北、師大書苑發行、pp. 1-571
- 林慶勳著 (2001) 『臺灣閩南語概論』台北、心理出版社、pp. 1-372
- 盧廣誠著 (2003) 『台灣閩南語概要』台北、南天書局出版、pp. 1-198